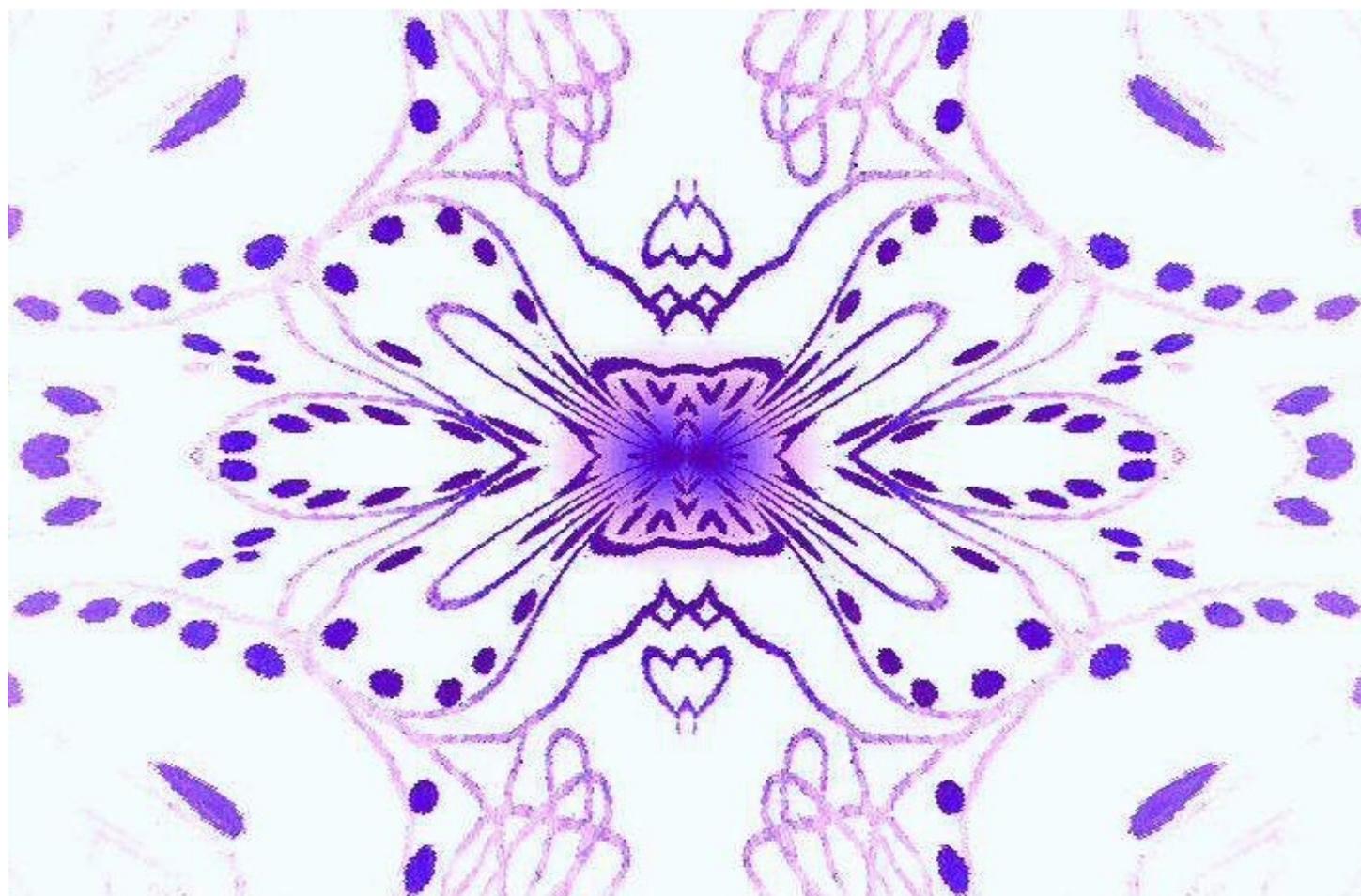


Twitter 140字掌編集・後編



mikatuki98

(26) ~ (30)

(26) 『お前は誰だ!』

「無い! 確かにココに置いてあった筈なのに、無い!」

俺は必死に探した。

アンパン・コッペパン・カレーパン・食パン。

「違う! こんなパンじゃない!」

俺は涙目になりながら探した。

「そうか、多分、自分で食べたのを忘れたんだな」

と、後から声がした。

「コレとちゃうん? メロンパン」

(27) 『憎い餡』

餡まん和肉まんが店先に並ぶと言い争いが始まった。

どっちが先に客に呼ばれるかが争いの焦点だ。

「あたしが先でしょ! ホントは豚まんのくせに」

「豚でも何でも肉が優先じゃい」

「それはあんたの思い込み! 可愛い女の子たちは皆私を先に呼ぶわ」

「じゃあ譲ってやらあ。先に食われる!」

(28) 『冴えてるのに冴えない』

寒い日はコーヒータイムが増えて頭が妙にスッキリしている。

小規模のブログが大規模のブログに吸収されていく記事を読みながら、マンタが口を大きく楕円形に開けて餌を水ごと吸い込むTV映像が脳裏に甦った。

必死なのか優雅なのか?

ヒレのひらひらで目が誤魔化される。

(29) 『大地の肉』

毎度作るオリジナルカレーの具には玉ねぎとエリンギと肉と決めているが、今日は肉が在庫切れ。

冷たい12月の雨が降る夕暮れに買いに出るほど、腹ペコの身には気力が無い。

すると隣の婆ちゃんが肉の差し入れだと言ってくれた。

「はい、これ沢山買ったからお裾分け。大地の肉！うまかよ～」

(30) 『夢』

使い切った電池を大量に入れてたせいか、かなり重くなったゴミ袋を引きずるように運び出すと、降り続いた雨で舗装道が小川のようになっていた。

「滑らないように……」

気をつけようと思った瞬間、ゴミ袋と一緒に流されてしまった。

「うそだろ！」

ゴミ袋の重さでどんどん加速する。

「マジかよ！」

(31) ~ (35)

(31) 『ひとこと』

「用事で出かけます」

書き置きを残して彼がこの部屋を出て行った日から丁度1年。

正確には閏年だったから366日が経った。

ずっと待っていたが、ある事に気が付いた。

「そう言えば、いつ帰るなんて書いてなかったわね」

彼女は翌日、部屋を出て行った。

すると彼がその翌日に帰って来た。

(32) 『フォークロック』

早く起きれば早く眠くなる

身体のリズムって凄いよな

眠って信号送ってる

オレの身体って凄いよな

凄いやつに逆らって

リズム壊して起きている

オレって全く

どうかしているぜ

ナンセンス

素直になろうぜ

素直が一番

オレのナチュラルリズム

最高！イエィ・イエィ！

(33) 『シュリンプ』

「海に帰りたい……」

「ん？」

右隣の友人、前の友人、左隣の友人を見た。

麦酒を飲みながら全員歓談中。

俺はチラリと鉄板の海老に目をやった。

するとピンと一跳ねして朱色に成って果てた。

「まさかお前……？」

その夜、俺の身体がベッドの上で時折ピンと跳ねた。

「明日、海に行くよ」

(34) 『僕だけのマミ』

しっとりクッキー・カントリーマミ。

カゴに常備してあるお気に入り。

珈琲のお共に今夜はキミを選ぶよ。

「マミ～キミは美味しい僕の恋人～♪」

「わっせ、わっせ」

「ちっこい……おじさん？」

なんと噂に聞く自然霊がマミを運んでいた。

だけどマミだけは譲れない。

「それ僕のですから！」

(35) 『我慢の結晶』

神様、どうか今度の土日だけは雪が積もりませんように。

車の運転が出来ますように。

必死でお願いしたご利益か、凍てつく空気と曇天の中、降雪をじっと我慢しているような日々が続いた。

そして月曜日の早朝、ドーンと庭先で音がした。

見ると天から降って来たのか、大きな雪だるまが居た。

(36) ~ (40)

(36) 『歪んだ愛情』

乾パンが硬くて前歯が折れた。

「前歯じゃなくて金槌で叩き割るのよ、あなた」

金槌を持って妻が現れた。

「やめろ！」

咄嗟に前歯を抑えた。

「だから乾パンを割るのよ」

妻が砕けた乾パンを一片拾うと、折れた前歯の場所にはめ込もうとした。

「やめろ！」

「あら、丁度いいのに、この大きさ」

(37) 『厚い愛情』

寒い朝。

厚手のセーターを妻が用意してくれた。

「やっぱり厚手だから温いな」

「あら、あなたコレも着てね」

厚手のジャケットも用意してくれた。

厚手に厚手はチョット窮屈だと思った途端、厚手のマフラーを掛けられた。

首が回らない。

そして最後に僕の手を取り、厚手の手袋をはめてくれた。

(38) 『消費者対象悪戯TV』

クリスマスカードの準備が出来ました。

ご希望の方は「カード下さい」とコールして下さい。

コールナンバーは101010-101010。

テンテンテンのテンテンテンと覚えて下さい。

コール時間は今から10分間です。

TVのCM通りにコールした。

「カード下さい」

「嫌だよん」

(39) 『サービス変更』

本日を持ちまして3本買うと1本オマケのサービスを終了致します。

明日からは5本買うと1本オマケとなります。

翌日、10本買えば12本になると計算して行ったがオマケは1本だった。

オレは店員に即効文句を言った。

「話が違うじゃねえか！」

「5本買ったら、1本でございます」

(40) 『はっぴいえんど』

<凍てつく夜には、この歌を聴きながらお茶を飲んでるんです>

絵葉書に添えられた言葉に、思わず葉書を裏返して歌を探した。

絵には狭山茶と銘打った茶筒と湯気が昇る湯呑が描かれている。

『狭山……埼玉県？そっか！』

幼い頃に埼玉の故郷で<かくれんぼ>をして遊んだ記憶が甦った。

(41) ~ (45)

(41) 『めでたし』

とうに忘れたとうちゃんの、拙い祝辞が甦る。

とうちゃんあの日は酔っぱらい、3度も途中で後戻り。

中々進まぬ祝辞ゆえ、腹は減るやら泣けるやら。

ビデオに封じた恥ずかしい、記録も今は宝物。

花嫁姉貴は赤面し、泣いて怒ってまた泣いて、今や子宝大宝、とうちゃん爺ちゃんと成りにけり。

(42) 『夕暮れ時のこと』

「ただいま」

誰も居ない部屋はすっかり冷えていた。

PCの電源を入れ画面をじっと見つめる。

自分の顔から恋人の顔に変わりマウスに手を置くと冷たい。

少し掌で温めてからITに接続した。

すると彼女の顔が消えた刹那、掌で温まったマウスがチューと鳴いて何処かへ逃げてしまった。

(43) 『焼きタラコ』

明太子は生で食べるのが旨いと言うよりも好きなのであって、かと言って煮て食おうが焼いて食おうが好きにすればいいやん！と方言丸出しで放言してるのでもない。

ただ、去年の歳暮に贈った冷凍に入れたままの伯母宅の明太子を引き取り、焼いて食べたら旨かった。

賞味期限切れでもね。

(44) 『意味深の微笑』

パリのレストランで窓拭きをしていた男がふと空を見上げると、雲が切れて快晴になっていた。

「ジュテーム」

明日のデートの相手に開口一番言いたい気分だ。

男は妄想モードに入り思わず窓にキスをした。

瞬間、巨漢のオーナーが窓の反対側から顔を近づけ、男にニヤリと微笑んだ。

(45) 『秘密の技』

夜になり腹が減った。

味噌ラーメンを食べ腹が太った。

歌を歌ったらまた腹が減った。

アンパンを食べたが喉が渴いた。

珈琲を飲んで腹がタプタプ。

夜風はピューピュー。

そうだ、今度は餅を食べて身体を芯から温めて来たる寒波に備えよう！

金欠の年末は想像だけで満腹になるオレの特技。

(46) ~ (50)

(46) 『利き麦酒』

いつもの缶ビールが店頭には見当たらなかった。
仕方がないからって諦めて帰ったりはしない。
似たような価格の生ビールを買って早速飲んだところ、いつもの缶ビールとは味が違っていた。
あたしの味覚もまだまだイケテルってこと？
喉越しイイけど後から舌に来る苦味がイマイチね、とか。

(47) 『満月先生』

現実では決してあり得ないだろうことが夢の中では起る。
例えば自分よりも上の立場の人物の手をそっと握りその頑なな心を包み込む。
突然彼の目の前に現れた虎から彼を守る自分は明らかに立場が逆転している。
誰かに守られたい願望が、母親に手を引かれる赤子のようになる。
孤独を抱える人。

(48) 『悲壮な怒り』

俺の神聖なる世界に何人をも侵入すべからず！
もし無断で入り込んでいるのを見つけたら即刻ピンセットで掴み出す！
そう、ピンセットで抓めるほど繊細な綿毛でも俺は侵入を許さない。
嗚呼、昨日見つけたこの綿毛、どうしてくれようぞ！
終日クシャミが止まらないし、涙も出て来たんだぞ！

(49) 『天使の修行』

魔界に行きて尚、魔界の精気に侵されない力ある天使となるのも至難の業。
一度は魔界に住して経験を積み、後に天使に復活した者のみが青い鉄猫も赤い布犬も慈愛で包む
ことが出来ると言う。
天使長の命に今回魔界行きとなった天使候補サヨリは、復命することを誓いうハウハ気分で旅立
った。

(50) 『風塵』

アジアからの風がお気に入りの真っ白なレースのカーテンに何かしらの色を付けて去った。
洗い流したいと手に取ると彼から土産に貰った月の砂漠の砂が混じっていた。

「今頃どこらへんを彷徨っているのかしら？」

「俺の骨はいつか風化して君の元へ風に乗って戻るさ」

笑いながら言っていた彼。